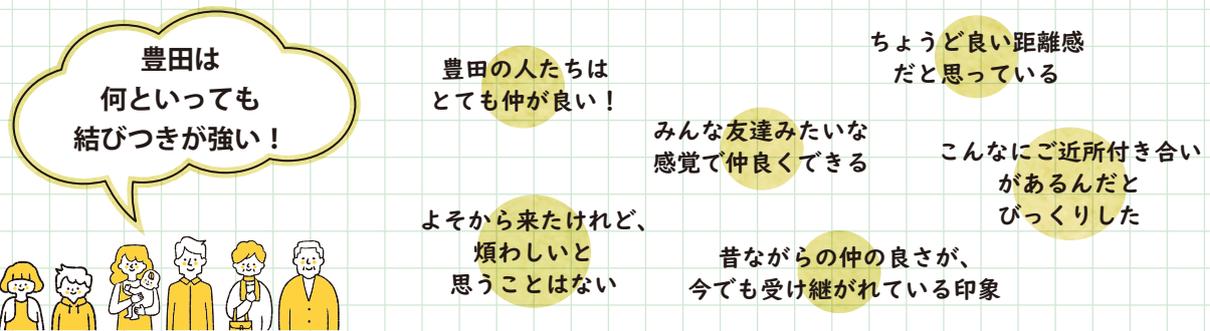


# 皆さんの「声」を聞かせてください！

## 豊田小学校保護者の皆さんの話

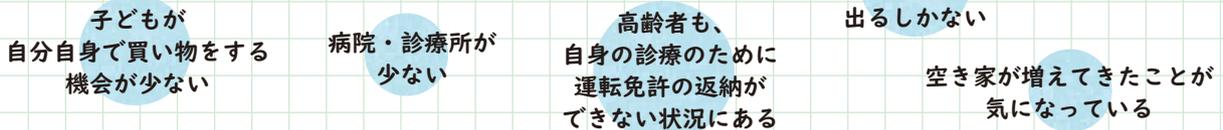
今回は、豊田小学校の保護者の方々にインタビューを行いました。自然豊かな豊田地区での子育てに充実感を感じている方が多く、また、地域内の結びつきの強さも魅力として捉えている方が多いことが印象的でした。一方で、「道が暗くて狭い」「医療機関が少ない」等のインフラの課題が複数上げられ、公共施設を新たに整備する上での課題も把握できました。



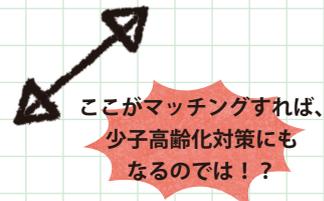
### 地域コミュニティの結びつきの強さを「地域の価値」として認識



### 豊田地区は、少子化とともに、高齢化・過疎化も進行中…！



### でも、豊田には良いところもたくさんある！



こうした「暮らしの中の充実感」をしっかりと発信していくことも大事！

## 1 結びつきが強い！

豊田地区の良さとして皆さんから挙げられたのは「地域コミュニティの結びつきが強い」という点です。町外から移住された方は「こんなにもご近所づきあいがあるんだと驚いた」とおっしゃっており、「煩わしいと思うことはない。ちょうど良い距離感で、自分も子どもも心地良く過ごせている」というお話でした。長らく豊田地区にお住まいの方たちも「豊田は昔から仲が良い」

「仲の良さが脈々と受け継がれている」という実感があるとのことでした。

「地域コミュニティの結びつきの強さ」が、高齢者層だけでなく、子育て世代にとっても誇れる地域の価値として認識されている点は素晴らしいと感じました。こうした誇りがどのように形成されてきたのかを考えることも、公共施設の役割を考える上で重要な点であると考えます。

## 2 小ささの善し悪し

豊田小学校は、現在すべての学年が1クラスの少人数編成となっています。「子どもだけでなく、保護者同士も顔が分かるので安心して過ごせている」という意見もあれば、「人間関係が限定的になることに、若干の不安はある」という意見もあり、小規模な教育環境のメリット・デメリットをそれぞれに感じているようでした。また、保護者の立場からは「中学校に入るまで長崎小・豊田小の保護者同士で顔を合わせる機

会がなく、戸惑いがある」という意見が出され、保護者を含めた同世代のつながりが小学校を中心に形成されており、それ以外の関係づくりが町内では困難な状況にあることが分かりました。

これまでのインタビューにおいても、たびたび聞かれていた「多世代で交流する場がない」という課題は、保護者にとっても変わらないようでした。

## 3 豊田がだんだん小さくなることへの不安

豊田小学校の児童数の減少をはじめ、豊田地区は少子高齢化の課題を抱えています。そして、この課題に付随する形で「空き家の増加」も新たな課題として大きくなってきた現状があります。「空き家が放置されていて、不安」「このままでは子どもにとって危険な存在になる」と、保護者としても看過できない状況を抱えています。

少子高齢化で地区の人口が減少していることを踏まえれば、「空き家があるにも関わらず、誰

も引っ越してきてくれない」として、「もっと町や豊田地区の魅力を発信してほしい」という要望も出されました。また、地域コミュニティも良好で、農地もある豊田地区について、「こうしたニーズもあるのでは？」という意見も出され、豊田地区が抱えている多様な課題を解決するための手段として、住民が感じている暮らしやすさをしっかり発信していくことも必要であると感じました。

公共施設再配置計画については、その必要性が「第6次中山町総合発展計画」にて説明されています。以下 URL または、右記コードよりご確認ください。

©中山町「第6次中山町総合発展計画を策定しました」

<https://www.town.nakayama.yamagata.jp/soshiki/seisaku/machidukurisuishin/214.html>



【主催】中山町総務広報課防災安全対策室（中山町大字長崎120番地／電話：023-662-4899）

【制作】東北芸術工科大学デザイン工学部企画構想学科 田澤ゼミ

〈2025年4月発行〉